

第3回 森林活用型ワークショップ検討会議 議事概要

1 開催日時

令和4年(2022年)1月27日(木) 13:00~15:00

2 形式

Zoom ミーティング形式

3 主催

北海道水産林務部森林環境局森林活用課

4 出席者

P.3「出席者名簿」のとおり

5 議題

(1) イントロダクション

13:00 開会

本日の進行・・・株式会社北海道博報堂 新どさんこ研究所 所長 山岸 浩之

(2) 第1部 制作物の最終確認

13:05 PR映像(仮編集版)の確認

13:25 ガイドブックの確認

13:40 市町村向け導入手引きの確認

14:10 質疑応答/第1部の総括

・・・株式会社北海道博報堂 新どさんこ研究所 所長 山岸 浩之

(3) 第2部 各種制作物の活用、総括

14:15 各種制作物の活用法について議論

14:45 検討会議の総括

14:55 主催者挨拶

15:00 閉会

6 内容

資料については、制作中のPR映像、ガイドブック等(画面共有により進行)だったため、公表しない。

(1) 第1部(PR映像等に対する各委員からの主な意見)

○PR映像(仮編集版)の確認

- ・ワークの部分にウエイトが置かれている印象のため、パッケージの部分にもう少しボリュームがあると魅力的になる。
- ・トドマツの「最も多い」という表現が、面積なのか蓄積なのか単位を明確にした方が良い。
- ・インタビューを受けた2社の業種を入れると良い。
- ・ワークショップで出会った人、様々な企業の人、地元の人との人的交わりのシーンを入れると良い。

○ガイドブックの確認(以下は、齋藤委員からモデルコース(素案)の説明後、その他委員からの意見)

- ・法人の方は、グループワークを皆でやる、キャンプで食事を皆で作るなどコンテンツを入れるべき。

- ・個人は、どんなシーンを楽しみたいかがイメージできるものになっていると良い。
- ・コーディネートして欲しい企業や個人がどこに問い合わせたらよいか載っていると良い。

○市町村向け導入手引きの確認

- ・東京からの来道には、多種多様な自然環境など、本州にない特徴を明確にしておく必要がある。
- ・カーボンニュートラルについて今一度、森の中で語り合うプログラムがあっても良い
- ・企業側の制度の整備も必要だが、現在の制度でも、異業種交流会や外部のセミナーに研修プログラムとして参加してもらうことは可能。
- ・手引きは、自治体だけではなく、観光協会や地元の体験業者にも情報共有した方が良い。
- ・全道の木育マイスターの情報を入れた方が良い。
- ・最近、ワーケーションに参加したい大学生が急激に増加。学生をワーカーに入れても良い。

(2)第2部(各種制作物の活用、総括)

○各種制作物の活用法について議論

- ・受け入れなどの面で、森林インストラクターにも声がけすると積極的に関わってくれる。
- ・森林環境譲与税の用途として提示してあげることも大事。
- ・グリーンワーケーションという言葉はどう広めていくかが大事。
- ・3つの媒体でロゴのテイストがバラバラなので統一し、コンセプトをしっかりと発信することが大事。
- ・医療費の削減も大きなテーマ、ウェルビーイングとグリーンワーケーションはつながっている。
- ・企業に伝える場合には、特に人事部が対象になる。労務管理や安全性確保が問題。
- ・ふるさと納税などで北海道を応援する人は多いが、北海道に行ったことがある人は少ないかも。一度北海道に旅行がてら仕事して遊びに来ませんか、というタッチポイントを北海道物産展やどさんこプラザなどに設けるのも大事。
- ・固定労働制のワーカーではなく、裁量労働制のワーカー、あるいは自己研鑽型のワーケーションのポテンシャルがこれから高まるので、この辺をターゲットとして意識してPRしていく。

○検討会議の総括

- ・道庁発の木育という言葉が全国区となったノウハウを、グリーンワーケーションに活かすと良い。
- ・ワーケーションは過渡期、市場が定着する2、3年の間にソーシャルポジションを取れるかが大事。
- ・北海道ならではの特徴を磨き上げてそれをPRするのが大事。ワクワクするような仕掛けが大事。
- ・札幌の企業のオーナー、人事部の人を招いて体験してもらうのが近道、是非来年度やって欲しい。

○主催者挨拶（小笠原森林活用課長）

- ・多様な選択と各種スタイルが選べるグリーンワーケーションに、全国から参加してもらえる制作物ができた。本日のご意見、提案を踏まえ、制作物の最終とりまとめを行うとともに、全国に普及、展開させていただく。引き続き、皆様方の応援をお願い。

第3回森林活用型ワークショップ検討会議 出席者名簿

検討委員(有識者)

氏名	所属等
末柄琢也	三井物産株式会社 北海道支社業務室長
麻生翼	NPO 法人森の生活 代表理事
木村俊介	株式会社博報堂 ビジネスデザイナー
藤本洋介	株式会社スノーピークビジネスソリューションズ 取締役
鈴木幹一	国立大学法人信州大学 社会基盤研究所 特任教授
大塚吉則	札幌国際大学スポーツ人間学部スポーツ指導学科 教授 医学博士
齋藤充	株式会社ノース・スター・トラベル 地域創成 Team 課長

議事進行・記録

氏名	所属等
山岸浩之	株式会社北海道博報堂 新どさんこ研究所 所長
菅谷環	

北海道

氏名	所属等
小笠原昭二	水産林務部森林環境局森林活用課 課長
石黒友伊	水産林務部森林環境局森林活用課 課長補佐
三上大公	水産林務部森林環境局森林活用課 主幹
浅利卓実	水産林務部森林環境局森林活用課 主査
安元岳玄	水産林務部森林環境局森林活用課 主査

事務局

氏名	所属等
池田匠	株式会社北海道博報堂 統合プランニング局ディレクター
藤山博史	株式会社北海道博報堂 統合プランニング局アカウントプランニング部アカウントスーパーバイザー